

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Individual and spousal unemployment as predictors of smoking and drinking behavior. 本人及び配偶者の失業と喫煙・飲酒行動との関連		
<b>執筆者</b>		
Arcaya M, Glymour MM, Christakis NA, Kawachi I, Subramanian SV.		
<b>掲載誌</b>		
Soc Sci Med. 2014 Jun;110:89-95. doi: 10.1016/j.socscimed.2014.03.034.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、多段階モデル、喫煙、社会疫学、無職、米国		24727666
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 本人及び配偶者の失業と喫煙・飲酒行動との関連を明らかにすることを目的とした。		
<b>方法：</b> 1971年～2008年に実施された、米国フラミンガム心臓研究の第1次～8次子孫コホートのデータを使用した。本人及び配偶者の失業と喫煙・飲酒について、社会経済因子や基本属性を共変量とした調整リスクを算出した。		
<b>結果：</b> 失業者は喫煙オッズが就業者の約2倍であった。男性喫煙者において、失業者は就業者より喫煙量が有意に高値であった。一方、失業者は就業者より飲酒量が低い傾向がみられ、特に女性において顕著であった。男性では配偶者の職の有無は喫煙・飲酒と関連を示さなかったが、女性では配偶者の失業と飲酒量の低下が関連していた。		
<b>結論：</b> 失業と喫煙及び飲酒との関連は異なった方向性を有しており、性差などを含む複雑な交互作用の存在が示唆された。これらの機序を明らかにする今後の研究が望まれる。		